

# 株主のみなさまへ

## 第187期 期末報告書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)



### 日光東照宮『五重塔』重要文化財(栃木県)

日光東照宮の最初の五重塔は文化12年(1815年)に焼失し、その後、文政元年(1818年)に若狭小浜藩十代藩主酒井忠進が再建した。高さ36m、極彩色の華麗な五重塔で、初層軒下には名工後藤正秀が手掛けた十二支の彫刻がある。また、初層内部にも漆塗り・彩色・漆箔がきらびやかに施されています。



## ごあいさつ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、ここに当期(2012年度、第187期)の営業の概況をご報告申しあげます。

当社を取り巻く環境は、日本国内では、個人消費が堅調に推移したものの、第2四半期に入ってから輸出や設備投資に足踏み傾向が見られ、国内の塗料需要は、下期の出荷数量・金額は前期を下回ったものの、年度を通しては前期並みとなりました。また、海外では、中国においては経済成長の鈍化傾向がうかがわれ、タイにおいては2011年末の洪水の影響から脱し、景気の回復傾向が続いています。

このような環境下におきまして、当社グループは増収増益を達成し、営業利益・経常利益・当期

純利益は過去最高となりました。また、業績が好調に推移したことなどから、当期の期末配当につきましては、前期に比べ3円増配し、1株につき8円(中間配当金を含め年14円)とさせていただきます。

今後の見通しとして、日本国内では、汎用塗料は消費税導入前の需要の増加や東日本大震災の復興需要などが見込まれる一方、自動車用塗料については、エコカー補助金終了に伴い自動車生産台数が減少する見通しであることから、その需要も減少する見込みです。このように、国内の塗料需要は楽観できる状況にはありません。原材料については、円安の影響により当期に比べ価格の上昇が見込まれていますが、当社グループとしては、現在遂行中の中期経営計画の方針のひとつであ

る「安価設計・安価調達・安価製造」を推進することにより、国内市場において着実に収益を確保する方針です。

海外においては、北米・中国・タイにおいて自動車生産台数が増加する見通しであることから、自動車用塗料の需要は増加する見込みです。中国では不動産取引の回復傾向が続いていることから、引き続き住宅内装用塗料の需要は堅調に推移するものと予想されます。海外事業については、このように増加する塗料需要を着実に取り込み、売上高・利益の確保をはかってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。



代表取締役社長

酒井健二

# 2012年度 KEY POINT ~営業利益・経常利益・当期純利益は過去最高に~

(表示単位未満の端数切捨)

## 連結売上高

国内外において自動車生産台数が増加したことなどから、連結売上高は前期比5.0%増の2,333億円となりました。



## 連結営業利益

売上高増加や継続的な原価低減活動の成果もあり、前期比58.4%増の258億円となりました。



## 連結経常利益

連結経常利益は、連結営業利益が増加したことに加え、為替の変動により外貨建て資産の評価益を計上したことなどから、前期比63.3%増の329億円となりました。



## 連結当期純利益

連結当期純利益は、前期比62.6%増の200億円となりました。

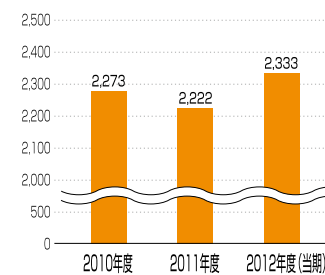


## 連結

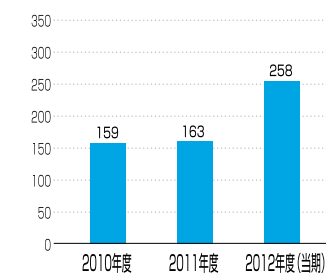
区分	2010年度	2011年度	2012年度(当期)
売上高(億円)	2,273	2,222	2,333
営業利益(億円)	159	163	258
経常利益(億円)	201	201	329
当期純利益(億円)	143	123	200
1株当たり当期純利益	54円18銭	46円51銭	75円62銭
総資産(億円)	2,659	2,741	2,879
純資産(億円)	1,366	1,453	1,720
1株当たり純資産	481円41銭	514円45銭	609円20銭

(注) 1株当たり当期純利益は、当期純利益を期中平均株式数(自己株式数を除く)で除して算出しております。

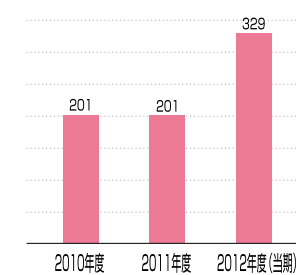
売上高 (億円)



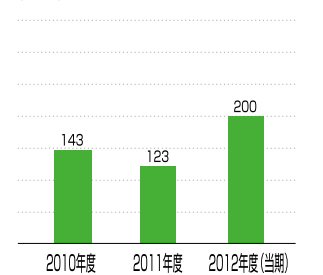
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



当期純利益 (億円)



## ～日本ペイントをよりよく知るためのQ&A～

### Q：日本ペイントは何をしている会社なのですか？

A：「塗料の製造・販売」をメインに事業をすすめています。「塗料」といえば、日曜大工など家庭用の塗料を想像される方もいらっしゃるかもしれませんが、用途は幅広く、自動車や鉄道車両・建設機械・工作機械などの製品から住宅・ビルの外壁や橋梁などの建造物にも使われます。また、パソコンや携帯電話のディスプレイのコーティング材や飲料缶などの表面処理剤など、塗料以外の分野にも「ファインケミカル事業」として展開しています（詳細は、P7の「塗料の用途あれこれ」をご参照ください）。

### Q：「グローバル化」といわれていますが、どのように海外展開をすすめていますか？

A：現在、アジア・北米・ヨーロッパに展開しています。特にアジアでは1962年にシンガポールに進出して以降、合併事業を通じ12カ国・地域に広く展開しています。2012年度もスリランカ・バングラデシュに新会社・新工場を設立するなど、今後高成長が見込まれる市場に積極的に進出しています（P9～10の「地域別セグメントの状況」、P11～12の「2012年度日本ペイントグループの活動①」をご参照ください）。

### Q：将来の目標はどのようなものですか？

A：2009年～2011年度の「サバイバル・チャレンジ ステージ1」の助走期間を経て、2012年度から「サバイバル・チャレンジ ステージ2」として、「中期経営計画」をすすめています。

サバイバル・チャレンジ				
Stage I	Stage II			Stage III
2009～2011	2012	2013	2014	2015～
助走期間	ホップ			ステップ～ジャンプ
サバイバル・チャレンジ	中期経営計画			中期経営計画以降
利益体質への転換 ～当たり前の会社～	確固たる利益体質の定着 ～成長企業への転換～ (市場から稼げる体質への転換)			利益の拡大 ～世界のトップメーカーと肩を並べる～

### Q：「中期経営計画」の詳細について教えてください。

A：「中期経営計画」では「確固たる利益体質の定着」と「成長企業への転換」をめざしており、市場から稼げる体質へ転換してゆくことを基本方針としています。

また、国内施策と海外施策に分けてそれぞれ基本戦略を策定しています。

国内施策につきましては、販管費削減や安価設計・安価調達・安価製造をはかるなど、コスト構造の改革に取り組む一方、国内市場が今後縮小していくと予想されるなか、売上高・利益の拡大をはかるべく、未参入・未塗装分野や非塗料分野の開拓等「新市場の創造」に取り組みます。

海外施策につきましては、アジアでは、合併事業を中心に、持続的な成長と収益体質の強化をはかります。また、北米では、営業黒字の確保、さらにはその拡大につなげてまいります。



	サバイバル・チャレンジ Stage II		
	2012	2013	2014
基本方針	確固たる利益体質の定着～成長企業への転換～ (市場から稼げる体質への転換)		
基本戦略 I (国内)	コスト構造の改革 既存事業の売上・利益拡大 新市場の創造		
基本戦略 II (海外)	アジアでの持続的成長・収益体質強化 北米収益基盤の強化		

## ～塗料の用途あれこれ～

日本ペイントグループは、塗料業界のリーディングカンパニーとして創業以来多種多様な製品・システムをお届けしています。日本ペイントの塗料は、生活に身近なさまざまな場面で使われています。当社の製品がどのような場面で使われているのかここで紹介します。



### 自動車用塗料 当期連結売上高 812億円 (34.8%)

高意匠性・高耐久性が求められる自動車ボディやバンパー向けの塗料を、最先端の技術を駆使して開発・製造し、国内外の自動車メーカーに供給しています。



### 汎用塗料 当期連結売上高 437億円 (18.8%)

住宅の外装を彩る建設用塗料や、橋梁をさびから守る重防食塗料などを提供しています。近年は、水性塗料などの環境配慮型商品を積極的に開発しています。



### 工業用塗料 当期連結売上高 436億円 (18.7%)

建設機械、鉄道車両、住宅用建材、スチール家具など幅広い分野の工業製品に塗装される塗料を提供し、国内外の工業生産の重要な一翼を担っています。



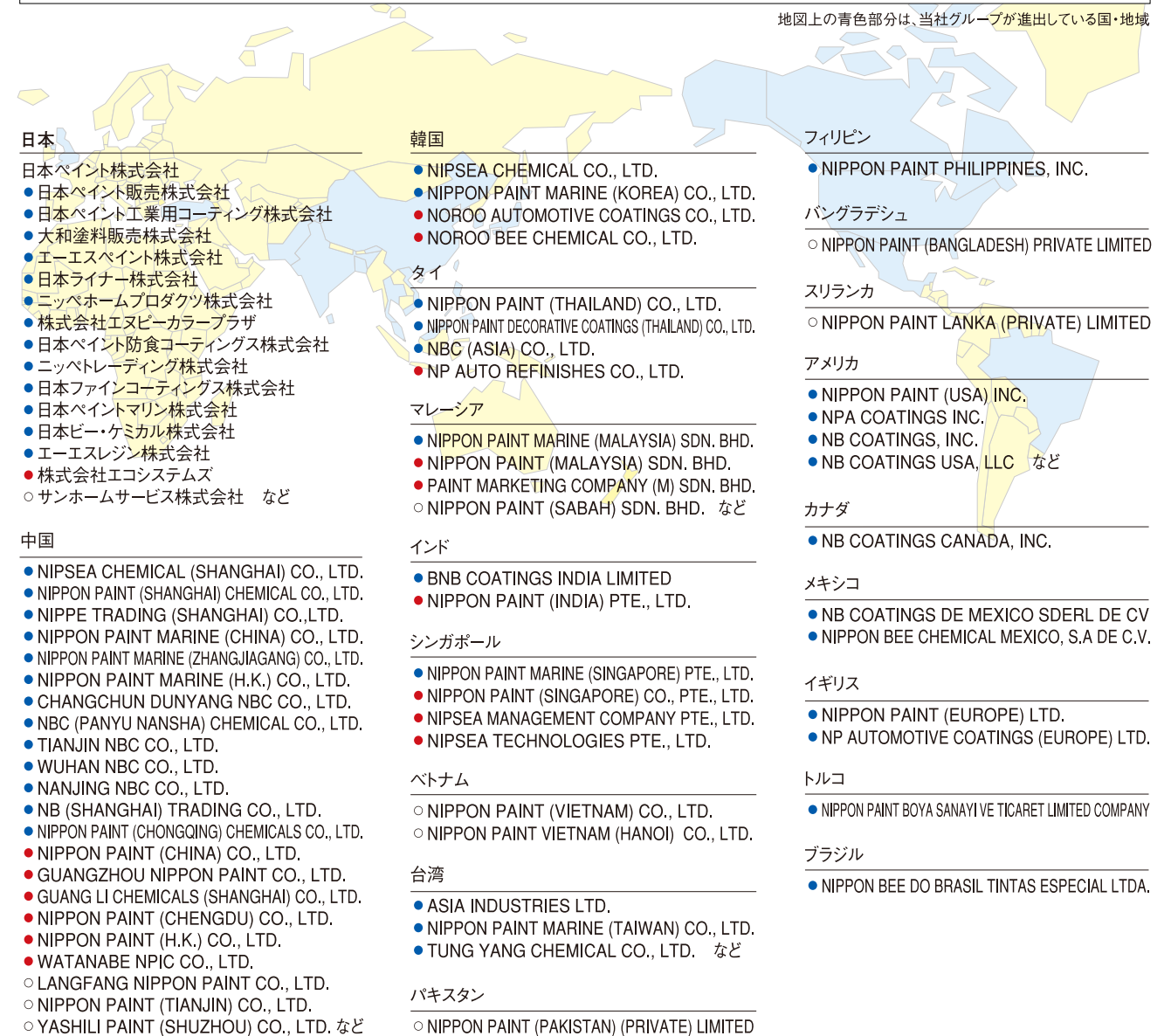
### ファインケミカル事業 当期連結売上高 129億円 (5.6%)

金属の表面を改質し、防さび性・塗膜密着性を向上させる表面処理事業と、電子部品関連材料を提供するファインプロダクツ事業から構成されています。

※このほかに、その他塗料(当期連結売上高 516億円、22.1%)があります。

## 日本ペイントグループ主要企業一覧

主要グループ企業 ● 連結子会社 ● 持分法適用会社 ○ その他



当社グループは、当社、子会社63社および関連会社18社で構成されており、世界各国に拠点を置いています。地域別セグメントを「日本」「アジア」「北米」「その他」地域に分けており、ここでは、「日本」「アジア」「北米」の当期の概況をご説明いたします。特に「アジア」では、パートナーと合併事業を広く展開しており、その中でも当社の持株比率が「20%以上50%未満」の関連会社における収益につきましては、「持分法投資利益」の項目で示しております。

## 【日本の活動概況】

- 売上高は2期ぶりの増収
- 営業利益は4期連続で増益
- コスト構造の改革を推進し、営業利益の増益効果をもたらす

## 【アジア、北米の活動概況】

- アジアセグメントの売上高・営業利益は2期ぶりの増収増益
- 中国は企業体質改善策の効果が現れ、収益性が改善
- 北米は自動車生産増・事業構造改革の相乗効果で営業黒字に転換

### 当期の概況

#### <日本>

当期の国内塗料需要は、下期の出荷数量・金額は前期を下回ったものの、年度を通しては前期並みとなりました。

このような状況のもと、主要事業分野である自動車用塗料・汎用塗料・工業用塗料はいずれもが、当期の売上高は前期および期初の想定を上回りました。その要因は、自動車用塗料については、エコカー補助金の効果もあり、国内自動車生産が好調に推移したことによるものです。汎用塗料については、戸建て塗り替え等のリテール分野の市況が好調に推移したほか、新商品を積極的に展開したことによるものです。工業用塗料については、住宅資材向け塗料の出荷が好調だったことなどによるものです。

一方で、船舶用塗料・ファインケミカル事業の売上高は前期を下回りました。

これらにより、日本セグメントの売上高は前期に比べ21億円増加し1,745億円(前期比1.3%増)となり、営業利益は売上高増加に加えコスト削減効果も重なり、前期に比べ71億円増加し224億円(前期比47.0%増)となりました。

#### <アジア>

中国経済は成長の鈍化傾向がうかがわれた一方で、タイについては洪水による低迷から脱し、景気回復の傾向が続きました。

このような状況のもと、タイは年間の自動車生産台数が過去最高となったことから、自動車用塗料の売上高が大幅に増加するなど、好調に推移しました。

船舶用塗料事業については、需要が低迷するなか、廉価品を投入したことなどにより当期の売上高は前期を上回りました。

これらによりアジアセグメントの売上高は前期に比べ46億円増加し、370億円(前期比14.4%増)となり、営業利益は前期に比べ10億円増加し24億円(前期比80.5%増)となりました。

持分法適用会社事業については、その中核である中国では下期に入ってから汎用塗料の需要が回復したことに加え、当期から本格的に取組み始めた企業体質改善策の効果が重なり、下期の収益性は改善しました。

これらによりアジアセグメントの持分法投資利益は前期に比べ5億円増加し、48億円(前期比13.0%増)となりました。

#### <北米>

北米における自動車生産台数は前期に比べ大幅に増加し、リーマン・ショック前の水準まで回復したこともあり、自動車用塗料の売上高は前期を大幅に上回りました。これに加え、これまでの事業体質改善による効果もあり、利益面では一定水準の営業利益を確保できるようになりました。

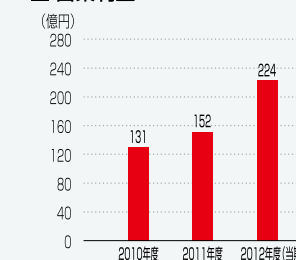
これらにより、当地域セグメントの売上高は前期に比べ40億円増加し、191億円(前期比26.9%増)となり、営業利益は9億円(前期は2億円の営業損失)となりました。

## 日本

### ■売上高

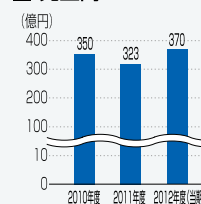


### ■営業利益

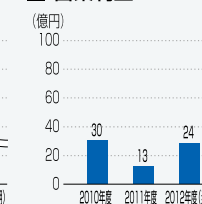


## アジア

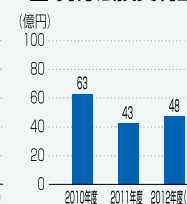
### ■売上高



### ■営業利益

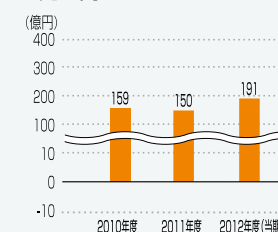


### ■持分法投資利益

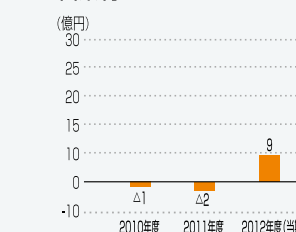


## 北米

### ■売上高



### ■営業利益



(注) 営業利益には、セグメント間取引消去その他の調整額を含めておりません。

## 2012年度 日本ペイントグループの活動①

### Nipseaグループ設立50周年、立邦塗料設立20周年

2012年は、当社とウットラムグループとのアジア合併事業がスタートしてちょうど50周年という節目にあたる年でした。

アジアにおける合併事業は、当社とウットラムグループの合併会社であるNipseaグループを中心に展開しており、日本ペイントグループとNipseaグループの売上を単純に合算すれば、売上規模世界第4位の塗料グループにまで成長しました。

また、当社とウットラムが1992年に中国・上海市に設立した合併会社である「立邦塗料」も、2012年に設立20周年を迎えました。

現在、同社は年間売上高1,000億円を超える中国トップクラスの塗料メーカーにまで成長しています。



合併事業の発祥となった  
日本ペイント・シンガポール本社（現在）

### アジア新興国へ～スリランカ・バングラデシュへ新たに進出～

現在、当社グループは、アジア地域において広く事業展開をしておりますが、新たにアジア新興国であるスリランカおよびバングラデシュへ進出を果たしました。

スリランカでは、日本ペイント・ランカを新たに設立し、スリランカ国内で建設用塗料の製造・販売を拡大し、早期に当社ブランドの確立・浸透をはかり、内戦終結後の高成長が期待されるスリランカ市場での事業拡大をめざしてまいります。

一方、バングラデシュでは、2011年に日本ペイント・バングラデシュを設立しており、2013年の竣工をめざし工場建設をすすめております。約1億4千万人の人口を有し、今後高成長が期待されるバングラデシュで建設用・工

業用塗料市場の獲得のため、アジア各国で培ってきた当社グループの品質・ブランド力を展開いたします。

当社は、今回のスリランカ・バングラデシュへの進出により、アジア12カ国・地域への進出を果たしましたが、今後も未進出国・地域での事業展開を推進し、アジア塗料市場におけるさらなる発展をめざしてまいります。



日本ペイント・ランカ本社

### 橋梁・タンク・発電所・プラントなどに——日本初の水性防食システムを新発売——

橋梁・タンク・発電所・プラントなどの鉄構造物向け塗料において、当社は、下塗りから上塗りまでの全工程の水性塗料化に業界で初めて成功し、「ニッペ水性防食システム」として、2012年8月28日より販売を開始しました。

大気汚染物質抑制や住環境への配慮などから、建築に使用される塗料は、有機溶剤を極力抑えた水性塗料が主流になっています。しかしながら、鉄構造物に使用される塗料は、特に耐食性や耐候性が強く求められることから、水性化は遅れていました。そのような状況のなか、当社は、自動車用塗料などで培った先進技術を応用し、下塗りから上塗りまでの水性化に成功しました。これにより、住宅・マンション・学校・食品工場など臭気への配慮が特に必要な場

所でも、塗装による臭気は低減されます。また、消防法の「非危険物」となるため、数量の制限なく貯蔵が可能となりました。

今後、日本ペイント販売株式会社を通じ、本システムを従来の鉄構造物向けのみならず幅広い領域に展開することをめざします。



写真提供：東京ガス(株)

「ニッペ水性防食システム」が採用されたガスタンク

### 当社塗料“ソウルレッドプレミアムメタリック”が赤ヘル軍団のヘルメットを彩る

グラウンド狭しと駆け回る“赤ヘル軍団”プロ野球・広島東洋カープの選手が着用しているヘルメットには、当社の塗料が塗装されています。この塗料は、マツダ株式会社が生産する高級セダンなどに塗装されている「ソウルレッドプレミアムメタリック」をイメージしたものです。

この塗料は、世界で最も“エモーショナルな赤”をめざして、自動車ボディ塗装向けにマツダ株式会社と当社が共同で開発した特別色です。高級セダンだけでなく高級SUV（多目的スポーツ車）にも採用されており、高い人気を博しています。この塗料が広島東洋カープの情熱や闘志を表すチームカラーである赤とイメージが合致したことから、今回のヘルメットへの採用につながりました。

自動車の高級感だけでなくプロ野球選手の躍動感も演出する「ソウルレッドプレミアムメタリック」。当社ではこのように付加価値が高い塗料を「プレミアム・カラー」と位置づけ、今後も幅広い採用をめざしてまいります。



当社の塗料で塗装されたヘルメット

## 個人投資家向け説明会を初めて開催

昨年12月に大阪市内において、当社では初めてとなる個人投資家向け説明会を開催いたしました。

会場には、定員一杯となる約80人の個人投資家の方々にご参加いただきました。

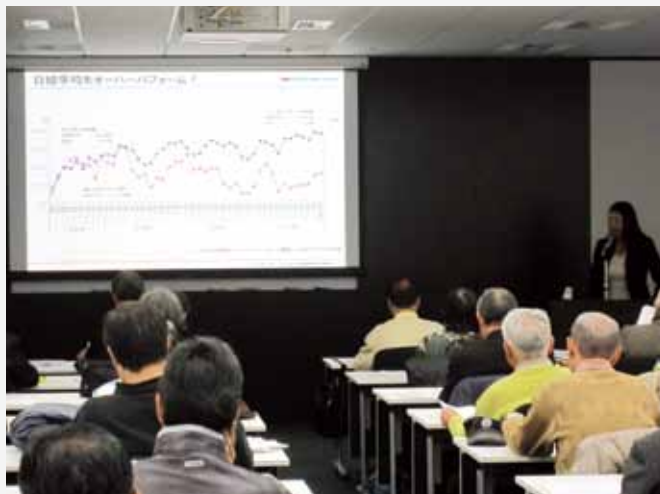
説明時間45分、質疑応答15分という時間設定でしたが、質疑応答の際には挙手される方が相次ぎ、大変盛況な説明会となりました。

従来、当社は証券会社や投資運用会社のアナリスト・ファンドマネージャーなど、いわゆる機関投資家を対象に決算の説明会を開催しておりましたが、このような個人投資家を対象とした会社説明会の開催は、今回が初めてでした。

個人投資家は、売買高も多く、大口の投資家のひとつでもあります。2009年からの「サバイバル・チャレンジ」の取組み以降、業績が急速に回復してきた今、個人投資家の方に当社の存在を知っていただける絶好の機会ととらえ、今回の説明会の開催に至りました。

当社では、今回の説明会を皮切りとして、引き続き個人投資家のみなさまへの働きかけを続けてまいります。

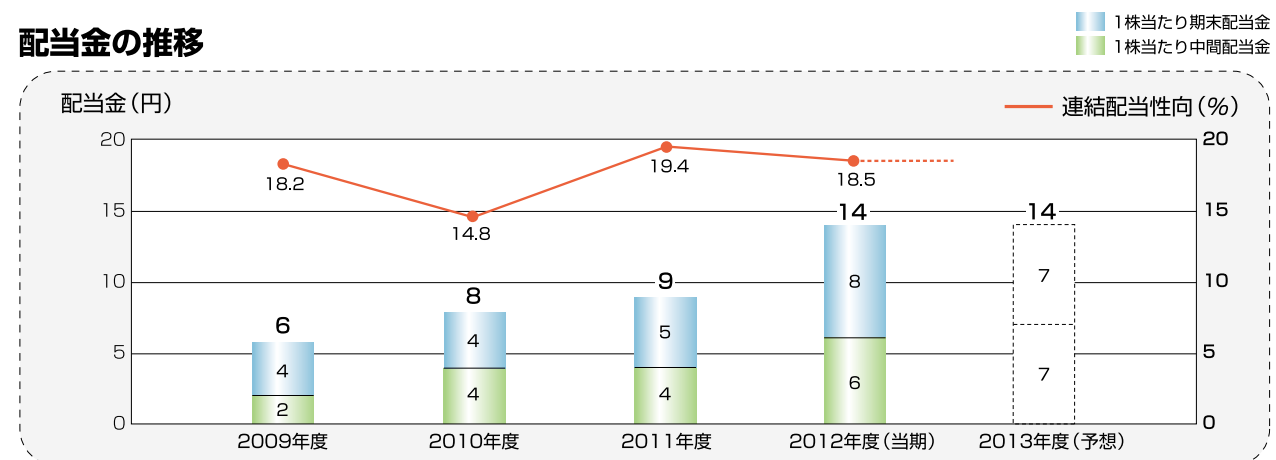
昨年12月12日、大阪市内で開催された個人投資家向け説明会の模様



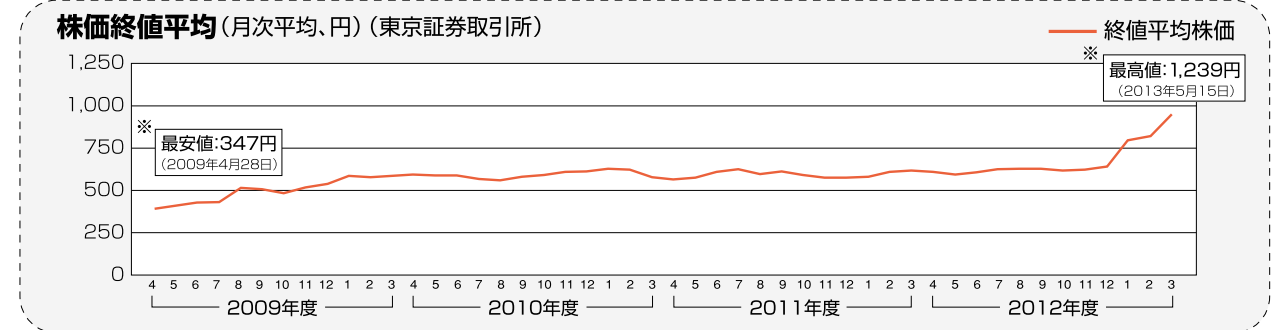
## 配当金を9円/年から14円/年に増配

当社は、従来、安定的な配当を実施方針としておりましたが、業績が順調に推移していることから、2012年度(当期)から業績に応じた利益配分を行う方針に変更しております。前期は、中間配当金4円・期末配当金5円の年間9円の配当を実施いたしました。当期は中間配当金・期末配当金ともに増配し、中間配当金6円・期末配当金8円の年間14円の配当を実施いたしました。当社グループの配当金の推移につきましては、以下のグラフをご参照ください。

### 配当金の推移



### 株価の推移



※2009年4月1日から2013年6月7日までの期間の最高値、最安値



## 財務諸表（連結）

### 連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円 単位未満切捨表示)

科目	前期	当期
	平成24年3月31日現在	平成25年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	147,641	157,320
固定資産	126,464	130,672
有形固定資産	59,739	59,907
無形固定資産	15,111	14,756
投資その他の資産	51,613	56,008
<b>資産合計</b>	<b>274,105</b>	<b>287,992</b>

Point 1

科目	前期	当期
	平成24年3月31日現在	平成25年3月31日現在
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	105,058	90,523
固定負債	23,664	25,444
<b>負債合計</b>	<b>128,723</b>	<b>115,967</b>
<b>(純資産の部)</b>		
<b>純資産合計</b>	<b>145,382</b>	<b>172,024</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>274,105</b>	<b>287,992</b>

Point 2

Point 3

### 連結損益計算書の要旨

(単位:百万円 単位未満切捨表示)

科目	前期	当期
	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高	222,256	233,380
売上原価	148,927	151,341
販売費及び一般管理費	57,005	56,177
<b>営業利益</b>	<b>16,323</b>	<b>25,860</b>
営業外収益	5,764	9,423
営業外費用	1,900	2,321
<b>経常利益</b>	<b>20,187</b>	<b>32,962</b>
特別利益	534	137
特別損失	718	712
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>20,002</b>	<b>32,388</b>
法人税、住民税及び事業税	7,355	11,566
法人税等調整額	△390	△670
少数株主損益調整前当期純利益	13,037	21,492
少数株主利益	725	1,474
<b>当期純利益</b>	<b>12,312</b>	<b>20,018</b>

Point 4

Point 1

#### 《資産合計》

当期末の資産合計は、前期末に比べ138億円増加いたしました。これは、売上高の回復に加え、営業利益も順調に拡大した結果、現金及び預金が増加したほか、株価の上昇により投資有価証券が増加したことなどによるものです。

Point 2

#### 《負債合計》

当期末の負債合計は、前期末に比べ127億円減少いたしました。これは、仕入債務の減少や、借入金を返済したことなどによるものです。

Point 3

#### 《純資産合計》

当期末の純資産合計は、前期末に比べ266億円増加いたしました。これは、当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことに加え、株価の上昇や為替が円安となったことにより評価・換算差額等が増加したことなどによるものです。

Point 4

#### 《損益計算書》

当期は、国内外において自動車生産台数が増加したことなどから、売上高は前期を上回りました。また、継続的な原価低減活動の成果などもあり、営業利益についても前期を上回りました。

### 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円 単位未満切捨表示)

科目	前期	当期
	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,483	31,848
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,713	△6,918
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,942	△18,744
現金及び現金同等物に係る換算差額	△46	1,481
現金及び現金同等物の増減額	6,780	7,666
現金及び現金同等物の期首残高	28,346	35,126
現金及び現金同等物の期末残高	35,126	42,793

Point 5

Point 5

#### 《キャッシュ・フロー計算書》

当期は、営業活動により創出した資金318億円を、投資活動において有形固定資産や関係会社株式の取得などに69億円支出し、財務活動において借入金の返済や配当金の支払いなどに187億円支出しました。

### 連結株主資本等変動計算書

当連結会計期間(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(単位:百万円 単位未満切捨表示)

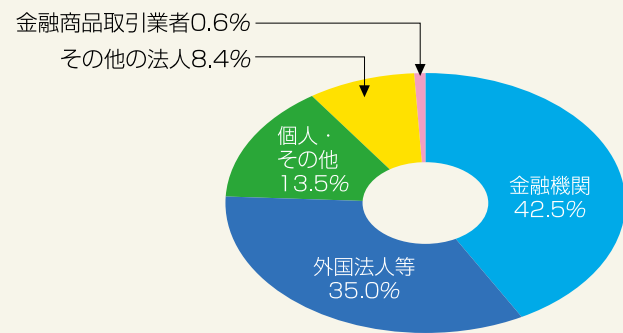
	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	27,712	27,187	95,211	△327	149,784	383	△2	△13,982	△13,601	9,199	145,382
当期変動額											
剰余金の配当	—	—	△2,911	—	△2,911	—	—	—	—	—	△2,911
当期純利益	—	—	20,018	—	20,018	—	—	—	—	—	20,018
自己株式の取得	—	—	—	△9	△9	—	—	—	—	—	△9
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	3,567	2	4,408	7,978	1,567	9,545
当期変動額合計	—	—	17,106	△9	17,096	3,567	2	4,408	7,978	1,567	26,642
当期末残高	27,712	27,187	112,318	△337	166,881	3,950	0	△9,574	△5,623	10,766	172,024

## 株式状況

(平成25年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,000,000,000株  
 発行済株式の総数 265,402,443株  
 株主数 11,285名

### 所有者別分布状況 (株式数比率)



### 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
FIRST INDUSTRIES CORP.	38,516	14.55
ナ テ イ ク シ ス	12,951	4.89
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	11,794	4.45
日本生命保険相互会社	11,386	4.30
住友生命相互会社	10,750	4.06
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	10,082	3.80
株式会社三井住友銀行	9,999	3.77
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,133	2.69
三井住友信託銀行株式会社	7,053	2.66
日本ペイント特約店持株会	5,339	2.01

(注)1.持株比率は、自己株式699,156株を除いて算出しております。  
 2.FIRST INDUSTRIES CORP.は、当社のアジア地域における合併事業のパートナーが保有する投資会社であります。

## 日本ペイント株式会社

(平成25年3月31日現在)

本 社 〒531-8511 大阪市北区大淀北 2-1-2  
 電話 06-6458-1111  
 創 業 明治14年(1881年)3月14日  
 資 本 金 277億1千2百万円  
 主要な事業内容 塗料およびファインケミカルの製造・販売  
 など。

### 役員 (平成25年6月27日現在)

代表取締役社長	酒 井 健 二
代表取締役副社長	馬 場 良 一
取締役専務執行役員	上 野 裕 章
取締役常務執行役員	西 島 寛 治
取締役上席執行役員	利 光 哲 也
取締役上席執行役員	石 原 良 治
取締役上席執行役員	中 村 英 朗
取締役上席執行役員	三 輪 宏
取締役上席執行役員	南 学
取締役上席執行役員	田 堂 哲 志
常 勤 監 査 役	森 田 俊 明
常 勤 監 査 役	桑 島 輝 昭
監 査 役	小 原 正 敏
監 査 役	清 水 正 裕
監 査 役	高 橋 司

## 株主メモ

事 業 年 度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定 時 株 主 総 会	6月中
単 元 株 式 数	1,000株
株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町 三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町 三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
公 告 方 法	電子公告により行う。 <a href="http://www.nipponpaint.co.jp/koukoku/">http://www.nipponpaint.co.jp/koukoku/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告 をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載し ます。
(ご注意)	1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、 口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。 口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名 簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱 UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口 座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信 託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、当社定款規定に従い三菱UFJ信託銀 行全国本支店でお支払いいたします。

## 当社ホームページのご案内

**投資家情報ページのご案内**

投資家情報ページでは、株主・投資家のみなさまに  
 企業情報や財務情報などを提供しております。

click!!

TOPページ

投資家情報  
ページ

<http://www.nipponpaint.co.jp/>

日本ペイント